

## 旧『バイクの森おがの』の利用者を募集します！



町では、空き施設となっている旧『バイクの森おがの』を有効活用して、地域振興や活性化が期待できる事業の展開に意欲のある事業者等を広く募集します。詳しくは、募集要項をご覧ください。

**募集期間** ● 2月1日(金)～3月29日(金)

**応募申請書** ● 小鹿野庁舎・総務課に用意してあります。

また、町ホームページからダウンロードも可能です。

<https://www.town.ogano.lg.jp/baikunomoririyou/>

**申込&問合せ** ● 小鹿野庁舎・総務課 ☎75-1221

## 平成31年度学校給食物資納入業者を募集します！

小鹿野町教育委員会では、学校給食センターへの学校給食物資の納入業者を募集します。

**受付期間** ● 2月8日(金)まで

**申込&問合せ** ● 小鹿野町学校給食センター ☎72-0011



こんにちは。  
町長です。

### 尾ノ内百景(冷っけえ〜)氷柱事業について



大変寒い日が続いておりますが、町民の皆様にはご健勝のことと存じ上げます。

さて、寒さは体に応えますが、寒くないと困る事業がございます。それは、三田川河原沢の尾ノ内百景(冷っけえ〜)氷柱事業

です。この事業は、皆様は既にご案内のことと存じますが、今年で10年目になります。

尾ノ内溪谷は、両神山から流れ出る尾ノ内沢が作り出した溪谷です。氷柱事業が始まる前から県営林道が入り、小鹿野町でも休憩舎やトイレ、つり橋などの事業を進め、春の新緑、夏の冷涼感、秋の紅葉の3シーズンを通した観光レクリエーションエリアとして整備を進めておりました。

そのような中で、冬季はお客様が途絶えてしまうことから、西秩父商工会青年部三田川支部(当時)で色々協議した中で、溪谷の寒さを逆手に取り、人工的に氷柱を作って売り出したらどうかということで始まったのが現在の氷柱事業とのことです。

しかし、何と言ってもはじめての試みであり、色々な試行錯誤を繰り返しながら、現在のような姿に成長してまいりました。溪谷の水を上流からパイプで引いてきて散水し、氷柱を作る訳ですが、そのパイプを引くことも大変危難な作業であり、事故を恐れずボランティアで皆さ

ん真剣に取り組んできました。若い皆さんの冬季に町の観光名所を作りたいという熱意がここまでこの事業を推し進めた要因であると思います。

現在、尾ノ内溪谷氷柱実行委員会(会長 北孝行氏)が組織され、事業が進められています。また、河原沢地区住民による河原沢よつがっせー委員会(会長 小坂忠一氏)も立ち上がり、お客様へのおもてなし事業(甘酒の無料提供や郷土食の販売など)も行われております。昨年は来場者数も4万人を超え、町を代表する冬の観光名所になりました。本年も多くのお客様が来訪するものと思います。

このような活動の成果が認められ、昨年11月に尾ノ内溪谷氷柱実行委員会は、埼玉県からシラコバト賞を受賞されました。現在、同実行委員会が技術的な指導をして作られた、横瀬町のあしがくぼの氷柱をはじめ、秩父市大滝地区の三十槌の氷柱、そして尾ノ内溪谷氷柱が秩父三大氷柱として人気を博し、観光バスツアーが組まれ秩父地域にお客様が訪れております。

このように冬の寒さというマイナス面を逆手に取り、民間の活力で無から有を生じさせた地域住民活動は大変素晴らしいものです。この事業は埼玉県内はもちろんですが、全国に誇れる事業であり、町としても最大限の支援と協力を進めてまいる所存です。

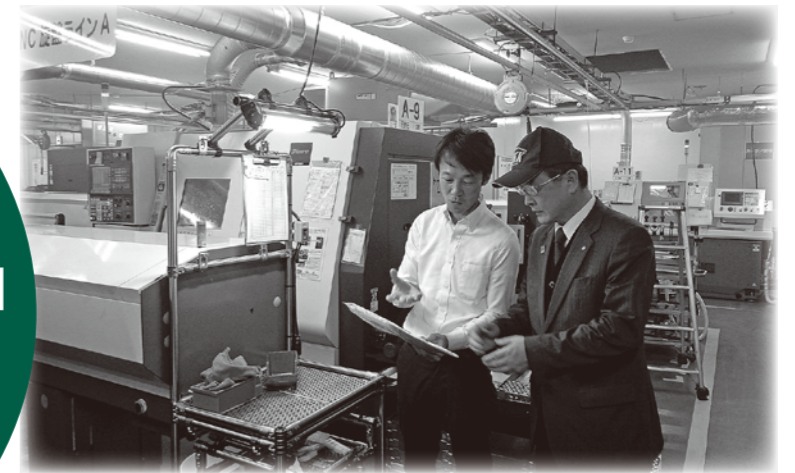
小鹿野町長 森 真太郎

## 町長の まち・ひと・しごと 魅力発信

～ 事業所訪問 vol.11 ～

### 「松本興産株式会社」

町内には、優れた技術を持った会社が多く存在します。事業所の持つ技術や魅力を町長自ら訪問して、目で見て、お話を伺い、住民に情報発信する「事業所訪問」を連載します。



製造工程の説明を受ける森町長

オニア企業]を目指す強い思いは、社員へも引き継がれ、次の50年も今まで培った技術を次世代へ伝えるために日々の技術開発を惜まず、社員一丸となって、これからも積極果敢にチャレンジしていく企業であると感じました。

#### 町長の見て・聞いて・話して

第11回の事業所訪問は、12月18日に松本興産株式会社を訪問し、松本直樹社長にお話を伺いました。

松本興産株式会社は、昭和45年(1970年)の創業以来、モノづくりを通して社会に貢献することを企業理念に掲げ、成長してきた精密部品メーカーです。

創業者は、スイス型カム式自動旋盤を主力とした時計部品加工からスタートし、不可能なものへの挑戦を惜まず、20余年を経て、NC複合機へ全機種転換を行い、さらに全設備NC化を完了させたとのことです。

平成9年(1997年)に現在の松本社長が入社し、より安定した受注を目指すため、自動車部品業界への参入とともに、社内環境の整備などを進めて創業以来の大改革を行ったことで、自動車業界で多くの顧客を獲得され、平成24年(2012年)にはタイに新工場を設立し、軌道にのることができたとのことです。

案内していただいた工場内は、品質・コスト・納期等すべての要望に応えるため、あらゆる複合を可能にしたハイグレードマシンをはじめ、80台以上の高性能複合旋盤が設置され、多品種・小ロット・量産品等様々な部品製造がスピーディに進められていました。信頼されるモノづくりをするために品質保証室が設置されており、室内は全員が女性社員という、女性が兼ね備えている集中力、繊細さ、緻密さが存分に活かされた品質管理検査が行われていました。

全社員数270名のうち、男女比率は半々、平均年齢は社員で30歳代。新人からベテランまでの調和が保たれ、仕事にやりがいを持って技術力向上に励む姿がモノづくりを極めると意識の高さとして随所に見られました。

あきらめず追及し続け「不可能を、削り抜け」を理念に「加工のパイ

#### わが社の主力商品

創業以来の卓越した技術力で幅広い産業領域をサポートしております。自動車産業を中心に製品の80%が自動車関連の部品で、およそ500種類、450万ピースになります。その他にも医療機器、空圧機器、通信機器、防犯機器部品などお客様のニーズに応える製品を常に高品質で提供しています。



精密な自動車部品ほか

#### ここに自信あり

わが社の加工技術における特徴のひとつは、新製品の試作段階から一貫して対応する技術力を培っていることで生産体制を確立し、超精密機械加工に対応した恒温室を完備し、幅広いお客様から厚い信頼を得ています。さらに、人と環境にやさしい工場づくりを心掛け、工場内には空調設備を導入し、クリーンネスを徹底することで、社員が気持ちよく働ける作業環境を創り出しているほか、脱脂洗浄においても有機溶剤を使わない地球環境にやさしい設備を導入しています。

平成30年(2018年)12月に会議室やランチルーム等を備える管理棟を新設しました。なかでも木のぬくもりを感じる温かみのあるランチルームは、社員のコミュニケーションのひとつとなる自慢の一角です。



わが社自慢のランチルーム!

#### 会社概要

**代表者** 代表取締役社長 松本直樹  
**従業員数** 270名  
**創業** 1970年  
**所在地** 本社:小鹿野町下小鹿野247-1  
 神川工場:児玉郡神川町大字関口4-1  
 海外:タイ  
**電話** 本社:0494-75-0571



松本社長(左)